

西安市における高齢者福祉施設の立地と利用状況に関する調査

正会員 ○張雁東*
同 鈴木博志**
同 毛利志保****
同 加藤彰一****

中国 西安市 高齢者福祉施設
立地状況 利用状況 居住環境

1. はじめに

中国では現在、60歳以上の高齢者が1.7億人と、全人口の13%を占め、年間600万人の高齢者が増加している。(図1)中国副省級主要都市の高齢者数に対する総ベッド数の充足度の調査の中における高齢者施設が最も不足しているのは西安市であった。

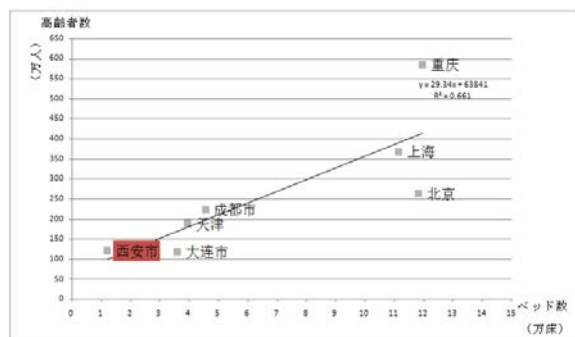


図1 中国主要都市の高齢者数に対する総ベッド数の充足度

西安市では2009年末の高齢者人口は126万人、高齢化率は14.9%であり、2050年の高齢化率は38.6%以上になると予測されている。そうした中で、効率的かつ効果的な量的に整備、また現在の施設空間やサービスについてより一層の質的向上を図ることが求められている。一方で、量的充足の段階で建設された多くの旧態的な施設について、どのように改修し質的向上を図るかが急務とされている。

しかしながら、施設は慢性的に不足しているものの、施設毎の入居率は大きな差異があり、それらについての要因分析や均衡を図るための対策が急務とされている。

したがって本研究では、今後高齢者施設の量的促進を図るうえで必要となる立地および計画ニーズについて把握することを目的とし、市全体における既存高齢者施設の入居者を対象とし、ヒアリングを行った。

2. 調査方法

国営および民営の高齢者各施設に対し調査対象をサンプルとして抽出した、各施設へ直接訪問し、60歳以上の高齢者を対象に対面記述式で記入した。調査項目、調査

日時、アンケート回収数などを表1と表2に示す。

表1 調査項目

方法	対面記述式	
調査項目	入居前の状況	同居人数、階数、満足度、問題点など。
	入所後の状況	サービスの実態について、施設/サービスへの要求事項、施設への入所理由など

3. 調査結果

表2 立地調査結果

	都心5区	近郊7区	合計
合計(調査実施した施設)	27 (47)	23 (43)	50 (90)
アンケート回収票数(人)	239	175	414

表3 入所率調査結果

入所率	平均入所率	合計
都心施設(軒)	67.5%	27
郊外施設(軒)	36.3%	23

表3に高齢者福祉施設における立地別の平均入所率を示す。すると、都心が7割弱の入所率があるのに対し、郊外では4割に満たない。こうしたことから、今後高齢者福祉施設において量的整備を進めるにあたって立地の重要性がうかがえる。

図2に施設への入居理由について示す。入所理由として最も高いのは、「子供の居住地に近い」であり、次いで「家族の勧め」であった。こうしたことから、個々の施設サービスよりも「立地」に重点を置いていることが考えられる。

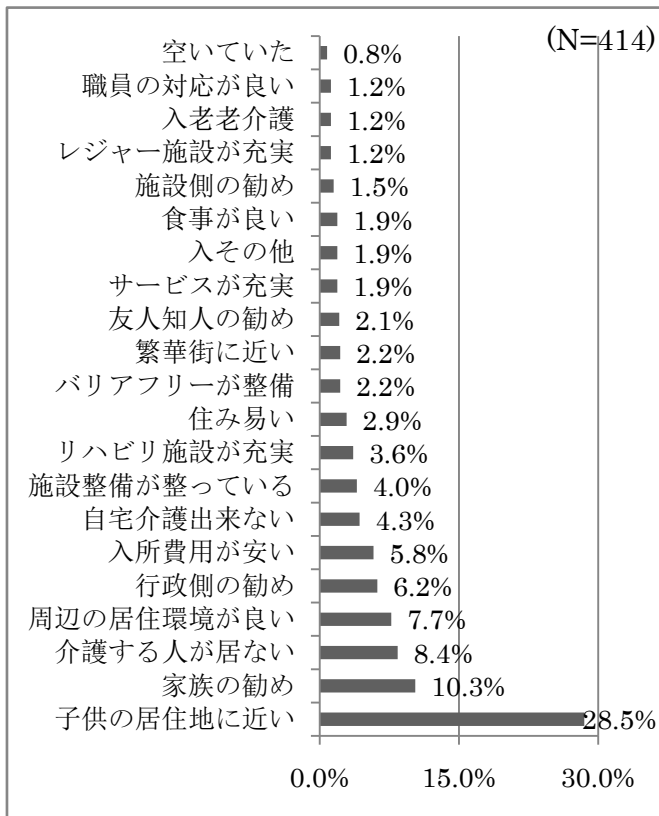


図2 施設への入所理由

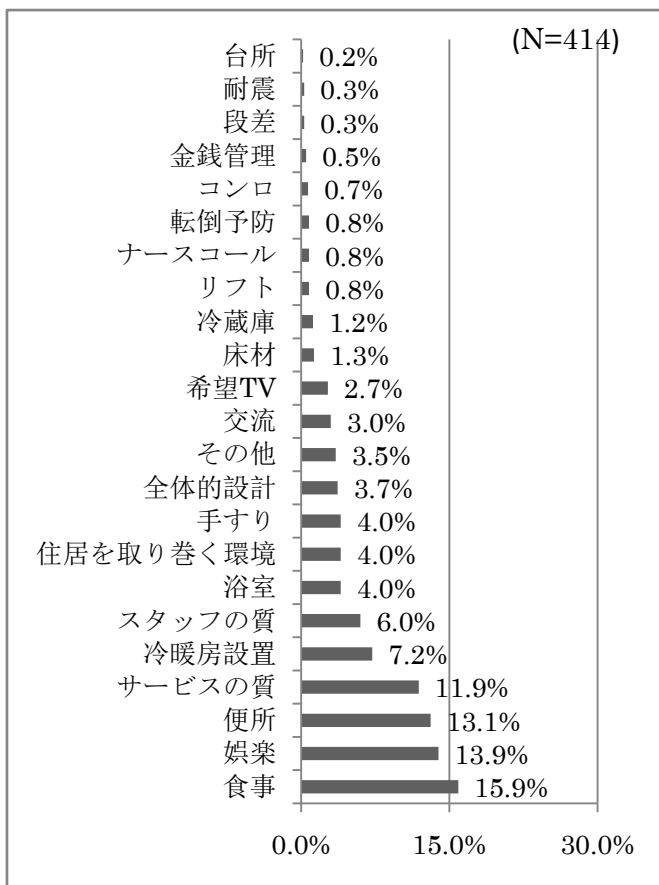


図3 施設の改善点

特に、施設ごとの傾向を見ると、都心部ほど、子供の居住地に近いことが重要視された。都心部での施設整備を促進することにより、施設需要と供給のバランスが是正される可能性があると考えられる。また、健常者を中心に「周辺の居住環境が良い」ことを重視する傾向があり、相対的に入所費用やサービス充実度よりも支持されている傾向があることは特徴的であるといえる。施設内及び施設周辺の環境整備を図ることが、施設入所を高める要因になる可能性があると考えられる。

図3に施設の改善点を示す。最も高いのは「食事」であり、次いで「娯楽」「便所」であった。中国では、元来食事について高い関心があるなか、施設ごとにサービス提供方法に工夫があるものの、更に改善を要するニーズがあった。すなわち、嚥下障害がある入居者に対する配慮などである。また、空間については「便所」に対する改善ニーズが高い。施設のバリアフリー化は大幅に遅れており、それらに対する改善が求められる。それ以外の空間についての改善ニーズはさほど高くならなかった。

4. まとめ

本研究では、今後高齢者施設の量的促進を図るうえで必要となる立地および計画ニーズについて把握することを目的とし、市全体における既存高齢者施設の入居者を対象とし、ヒアリングを行った。その結果、高齢者の居住地と高齢者福祉施設（立地場所及び計画ニーズ）は整合していないことが明らかになった。

したがって、今後の中国、特に西安市における高齢者施設整備について、市全体として入所を促進または平均化するためには「①地域で高齢者を受入れられるよう普及を促進すること②中国の伝統的の家屋建四合院など地域資源の活用を促す運営や立地が求められること③住まい方の多様性を受け入れられるような、例えば家族との距離感を柔軟に変えられるような個の空間の規模や汎用性のある平面が求められるといえる。」といったことが重要と考えられる。

参考文献

- 1) シウロン. 中国の高齢者福祉入所施設の在り方に関する研究. 評論・社会科学 91, 107-126, 2010年
- 2) 戴 維、長谷川直樹、鈴木博志: 北京市における高齢者福祉施設の立地と利用率の状況に関する研究--高齢者福祉施設の立地のあり方について(その 1). 日本建築学会計画系論文集 75(647), 175-182, 2010年
- 3) 毛利志保、陳新: 中国における高齢者居住の場の事態及び施設整備における課題 東海支那研究報告集 2013 (51) ,541-544,2013年

* 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程
 ** 名城大学理工学部建築学科 教授・博士(工学)
 *** 三重大学大学院工学研究科 助教・博士(工学)
 **** 三重大学大学院工学研究科 教授・博士(工学)

* Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
 ** Prof., Dept. of arch., faculty of science & Eng., Meijo Univ.
 *** Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 **** Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng